

【2024年度事業計画】

I 次代を担う青少年の健全な育成に資する事業（公益目的事業1）

1. イオン チアーズクラブ(予算：2億7,527万円)

自然環境や社会貢献活動などに興味や関心を持ち、考える力を育む場として、小中学生を中心に国内約400の店舗等を拠点に体験学習を行っています。各クラブは独自のテーマに沿って活動を行い、1年間の成果を壁新聞に取りまとめています。

(1) 本年度の主な取り組み

活動クラブ数とメンバー数の増加、ならびに未稼働クラブの活動再開と1クラブ当たりの活動回数を引き上げるため、以下のことに取り組んでまいります。

- ① 各クラブのコーディネーターを対象に集合研修を実施し、スキルの向上や他クラブのコーディネーターとの情報交換及びチアーズクラブのネットワークの強化を図ります。
- ② いつでも自然体験ができる里山作りの計画に参画することで、各クラブのメンバーに自然体験が提供できるよう取り組みます。
- ③ イオンフィナンシャルサービス(株)のご協力により開始した金融教育の体験プログラム「わくわくキャッシュレス体験」に続く取り組みとして、イオンディライト(株)、(株)イオンファンタジー、マックスバリュ東海(株)の各社と共同で新しい体験プログラムの開発を行ってまいります。
- ④ 昨年4月にイオンアグリ創造(株)の協力により、イオン牛久農場内に初めて開園した「チアーズ農園」について、本年度は、同社の兵庫県三木里脇農場内、宮城大学坪沼農場内等に新たな農園を開園し、運営モデルの確立と体制の整備を図ることで、農園数の増大につなげていきたいと考えております。
- ⑤ 上記の取り組みについてネット配信し、当財団のホームページやYouTube映像への誘導を図ることで、事業内容の周知とチアーズクラブメンバーの新規入会促進につなげていきたいと考えております。

2. 中学生作文コンクール(予算：4,050万円)

多感な時期といわれる中学生が環境保全や社会貢献活動をテーマに自分自身の考えをまとめ、書く力を養うことを目的に、2003年から実施しています。

(1) 本年度の主な取り組み

- ① 応募数拡大と文章の表現力向上に向け、募集開始前に専門家による作文の書き方の指導映像をYouTube等で公開する計画です。
- ② 新たに文部科学大臣賞を創設したほか、表彰式にあわせて講演を実施するなど、当事業の周知を図ってまいります。

(2) 実施期間

- ① 募 集：2024年7月上旬～9月下旬
- ② 審 査：9月下旬～10月末日
- ③ 表彰式：11月30日(土)(都内にて)

3. イオン エコワングランプリ (予算 : 5,350 万円)

全国の高校生がクラブ単位で環境に関する活動の発表を行い、表現力や発信力を向上させるとともに、優れた事例を見聞きすることで、新たな取り組みの実践につなげることを目的に、2012年から開催しています。

(1) 本年度の主な取り組み

- ①募集部門の名称を「普及・啓蒙部門」「研究・専門部門」とし、応募に必要な項目とともに募集要項の中に明記することで、応募の促進を図ります。
- ②一次審査通過校に過年度受賞校の発表動画と審査員のコメントを送付し、各クラブの活動の参考にしていただくことで、活動内容のレベル向上や最終審査に必要なプレゼンテーション力の向上につなげたいと考えております。

(2) 実施期間

- ①募集 : 2024年7月上旬～9月下旬
- ②審査 : 9月下旬～11月中旬
- ③最終審査会 : 12月14日(土)(都内にて、同日に表彰式を併せて開催)

(3) 参加対象 : クラブ単位で環境に関する活動をしている高校生(団体応募)

4. 学校建設支援 (予算 : 2,000 万円)

「平和な社会の実現には基礎教育の充実が不可欠」という想いのもと、アジア各国において教育施設の整備を支援することを目的に、2000年に事業を開始しました。全国の店頭募金とイオンワンパーセントクラブからの拠出金を活用し、これまでにカンボジア、ネパール、ラオス、ベトナム、ミャンマーの5か国で426校の学校が完成しました。

(1) 本年度の主な取り組み

- ①今までに建設された学校の多くが開校から20年以上を経過し、アジア各国の子どもたちを取り巻く環境も変化しているため、今後の教育支援のあり方について、内閣府あて事業内容の変更認定申請を含め、検討して行きたく考えております。

5. イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン(予算 : 5,600 万円)

カンボジア、ラオス、ミャンマーの一部地域では、不衛生な池の水や、健康を害する恐れのある物質を含んだ地下水が生活用水として使われています。

また、安全な水を確保するために多くの子どもたちが遠方への水汲みに時間をとられ、学校に通えない状況が続いています。

これらの地域に安全な水を届け、子どもたちが水汲みをしなくても済むよう、2010年より全国での店頭募金と寄附金の拠出を開始し、(公財)日本ユニセフ協会と協働で給水施設の設置等を行っています。

(1) 本年度の主な取り組み

- ①カンボジアのラタナキリ州、クラチエ州を重点エリアとし、気候変動リスクに対応した安全な給水計画の運営支援を行い、給水システムの設置により安全な水を提供してまいります。

- ②ミャンマーのカレン州において、給水システムや浄水フィルターを提供すると同時に、学校や保健施設に衛生設備を設置してまいります。
- ③例年、日本国内で行っている寄附金の贈呈式を、カンボジアの現地ユニセフ事務所で実施し、駐日大使へも活動内容を報告することで、事業内容の周知と認知度の向上につなげていきたいと考えております。

(2) 実施期間

- ①店頭募金：2024年4月8日（月）～2024年5月12日（日）
- ②贈呈式：7月下旬

6. 近野教育振興基金（予算：605万円）

この事業は、近野教育振興会（山形県米沢市）より当財団に承継のご依頼があり、これを受け入れるため、内閣府に事業内容の変更を認定いただき、定款の変更等、必要な手続が2024年度中に完了する見込みとなりましたので、2025年度より新たな奨学金事業として開始したく考えるものです。本年度は、選考方法や選考基準等、具体的な制度設計を進めてまいります。

なお、奨学金給付の対象者については、近野教育振興会の設立の趣旨にならい、学習意欲や高い目的意識を持ちながらも経済的に困難な家庭状況にある、山形県置賜地方（米沢市、南陽市、長井市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町）に所在する学校教育法による高等学校に通学する高校生、及び当該高校を卒業し、現役合格の上、大学に進学した学生とする計画です。

近野教育振興基金の運営計画（2025年度以降）

(1) 募集方法

各高等学校の奨学金担当窓口を通じての募集（学校推薦）、及び、ホームページ、置賜地方の公共施設での掲示によります。ただし、大学進学を希望する高校3年生の応募については、直接応募のみ受け付けるものといたします。

(2) 選考方法

選考委員会の選考を経て、理事会で奨学生を決定いたします。

(3) 支給内容

- ①高校生 奨学金給付額 月額2万円（年額24万円）
- ②大学生
 - a. 奨学金給付額 月額5万円（年額60万円）
 - b. 奨学生内定者に対して受験助成金として10万円、合格した奨学生に対して入学一時金10万円を、それぞれ給付するものとします。

Ⅱ 諸外国との友好親善の促進に資する事業（公益目的事業2）

1. ティーンエイジ アンバサダー（予算：9,650万円）

将来を担う日本と海外の高校生が互いの国を訪問して友好親善を深め、両国の架け橋となることを目指す交流するプログラムで、1990年から実施しています。

「表敬訪問活動」「交流活動」「歴史・文化活動」の3つの活動を通じて、文化や伝統、生活習慣等の違いを体感し、価値観の多様性を認識するとともに、親交を深めます。

（1）本年度の主な取り組み

日本と中国は、隣国として長い文化交流の歴史を持っており、将来を担う両国の若者たちが相互理解を深めることがアジアや世界の平和のために重要と考え、2009年から2019年まで、「日本 中国ティーンエイジアンバサダー（日中小大使）」を毎年実施して来ました。新型コロナウイルスの感染拡大が収まって来たことを受け、5年ぶりに本プログラムを開催します。

①日本プログラム

- a. 首相官邸、外務省表敬訪問
- b. 中華人民共和国駐日本国大使館にて歓迎会及び質疑応答の実施
- c. ドキュメント映像作品を制作

②中国プログラム

- a. 中国外交部への表敬訪問
- b. 在中華人民共和国日本国大使館にて歓迎会及び質疑応答の実施
- c. ドキュメント映像作品を制作

（2）実施期間

- ①日本プログラム：2024年7月15日（月）～20日（土）
- ②中国プログラム：2024年10月14日（月）～19日（土）

（3）参加対象：日本から40名と中国から40名、計80名の高校生

（日本側の参加校は、公募申込のあった高校の中から、外部委員による選考委員会にて決定しました。中国側の参加校は、中華人民共和国駐日本国大使館を経由して選定いただきました。）

2. アジア ユースリーダーズ(予算：5,750万円)

アジアの将来を担う高校生たちが、グローバル感覚を養い、価値観の多様性を学ぶとともに、リーダーに必要な問題解決力や自発的な行動力を高めることを目的に、2010年に開始しました。共通の社会問題について、英語でチームディスカッションを行うプログラムです。

(1) 本年度の主な取り組み

- ①アジア各国の高校生を日本に集めて、テーマに関する視察や専門家によるレクチャーに基づき、議論を重ね、解決策を提案していただきます。
- ②日本に集合する前に、オンライン授業でチームワーク作りやプレゼンテーションスキルの向上を図り、プログラムでの議論や最終発表のレベルアップにつなげたいと考えております。

(2) 実施期間：2024年8月19日(月)～24日(土)

(3) 参加対象：インドネシア、カンボジア、タイ、中国、日本、ベトナム、マレーシア、ラオスの高校生80名

3. イオン スカラシップ(予算：2億5,200万円)

アジアの大学生を対象に、将来日本と母国の架け橋となることを目指す学生を支援する目的で2006年に開始しました。授業料と生活費の補助金を支給している他、奨学生同士の交流や宿泊研修カリキュラム、ボランティア活動などの機会を提供しています。

また、母国と日本との架け橋を目指す学生たちに、日本を良く知り、日本語学習を奨励するため、奨学金事業の一環として、2015年より日本語スピーチコンテストを実施しています。

(1) 本年度の主な取り組み

- ①アセアンの奨学生の拡大
奨学生の比率が低いアセアン各国からの奨学生を増やすべく、本年度よりアセアン各国の大使館からの推薦枠を新設しました。
- ②奨学金支給額の格差是正
各国の経済状況の変化による奨学金支給金額の見直し、ならびに同国内での大学間における金額の格差是正、支援人数、対象学年などの見直しを進めるべく、検討を開始いたします。
- ③対象大学の拡大
中国で発展が著しいエリアにおいて、優秀な学生を支援するため、新規で対象大学の追加を検討してまいります。
- ④スピーチコンテストの拡大
奨学金事業の一環である「日本語スピーチコンテスト」について、従来の大学単位での開催から、中国全土およびアセアン各国から応募、参加出来る形式に変更・拡大するとともに、最終審査会の実施場所を日本国内とすることで各国からの参加者の親睦を深めたいと考えております。

(2) 実施期間

①日本

2024年 5月 各大学による候補者推薦、選考委員会による奨学生決定
2024年 6月28日(金) 認定証授与式
29日(土) セミナー
2024年 11月
~2025年1月 セミナー(2~3回)
2025年 2月 修了式

②中国・アセアン各国

2024年 4月~11月 日本語スピーチコンテスト(応募・選考)
2024年 9月~10月 奨学生選考
2024年 11月~12月 認定証授与式
2025年 1月~2月 日本語スピーチコンテスト最終審査会・訪日研修

(3) 対象大学

①日本における奨学生

北海道大学、東北大学、千葉大学、東京大学、東京工業大学、
早稲田大学、上智大学、慶応義塾大学、国際大学、名古屋大学、
京都大学、神戸大学、流通科学大学、九州大学

②中国・アセアン各国における奨学生

- a. インドネシア インドネシア大学、ボゴール農科大学
- b. カンボジア 王立プノンペン大学、国立経営大学
- c. タイ チュラロンコーン大学、タマサート大学
- d. 中国 北京大学、清華大学、北京第二外国語学院、南開大学、
青島大学、中国海洋大学、武漢大学、深圳大学、中山大學、
湖南大学
- e. ベトナム ホーチミン人文社会科学大学、ホーチミン教育大学、
ホーチミン経済大学、ハノイ人文社会科学大学、
ハノイ貿易大学、ベトナム国家農業大学
- f. ミャンマー ヤンゴン外国語大学

4. 海外イベント出展(予算: 905万円)

大使館や各省庁が主催する、各国のフェスティバルなどをはじめとしたイベント等にブース出展し、当財団の事業活動や環境にやさしい取り組みの紹介などを行い、周知を図るとともに、大使館等との関係強化を目指すものです。

Ⅲ 地域社会の持続的発展に資する事業（公益目的事業3）

1. ふるさと未来支援（予算：1億3,884万円）

地域社会の一員として、子どもたちの健全な育成とともに、未来に引き継ぐべき無形文化財、無形民俗文化財の保存、振興、継承の支援に取り組みます。また、少子化や核家族化が進み、地域とのつながりが希薄化する中で、乳幼児から未就学児の子育てをしている人々が絆を深める機会を提供し、より良いコミュニティづくりを支援します。

（1）地域文化・工芸技術の普及啓蒙・継承支援

①本年度の主な取り組み

- a. 地域の伝統行事・文化・工芸技術の普及啓蒙・継承支援について、支援先の少ないエリアについて、優先的に新たな支援先候補となる団体や行事等の発掘を進めてまいります。
- b. 支援額の大きな行事については、現地を視察し、行事の実施状況や支援金の活用状況等を確認するとともに、動画等による対外発信を行いたいと考えております。

②実施期間：2024年4月1日（月）～2025年3月31日（月）

③支援対象：日本国内の伝統文化・工芸技術の普及啓蒙・継承活動を行う団体

（2）イオン すくすくラボ

地域とのつながりが必要とされている地域で、乳幼児から未就学児（0～3歳児）の子育てをされている方を対象に、行政等との連携のもと、育児に関するセミナーや個別相談会等を行うことでサポートを行うものです。

①本年度の主な取り組み

- a. 活動内容について、開催地の状況に応じて実施できる複数のプログラムを開発し、より参加者のニーズに対応でき、サポートとなるべく取り組みます。
- b. 本年度は全国エリア（浜松、広島、札幌、名古屋、福岡、東京、大阪）で開催し、活動の認知度向上を図りたいと考えております。

②実施期間：2024年4月、7月、9月、10月、12月、2025年2月、3月（予定）

③参加対象：開催地域周辺の乳幼児や未就学児童とご家族

2. 災害復興支援（予算：2億2,650万円）

大規模災害により被災した方々が、日常の生活を一日でも早く取り戻せるよう、復旧・復興を支援しています。国内外で発生した災害の被災地において、復旧・復興活動にお役立ていただくため、迅速な緊急支援金の寄附等を行っています。

（1）本年度の主な取り組み

①首里城復興支援

2019年10月に発生した大規模な火災により、甚大な被害を受けた世界遺産の首里城（沖縄県）について、沖縄県宛てに支援金を寄附し、2024年までの向こう5年間にわたって復興を支援するものです。なお、支援金の寄附は、本年度が最後となります。

a. 2022年秋に着工した首里城正殿復元工事の進行に合わせて、イオンチアーズクラブポスターコンクール入賞者等を対象とした見学ツアーを実施し、沖縄県内の子どもたちとの交流機会の拡大を図りたく考えております。

b. 沖縄県への寄附金贈呈にあたっては、復興支援金9,000万円に1,000万円を上乗せし、復興の様態を全国へ対外発信するため、同県の指定管理者である（一財）沖縄美ら島財団と一緒に進捗を推進してまいりたく考えております。

②能登半島地震支援

2024年1月に発生した能登半島地震に際し、前年度の合計2億円の支援金の寄附に引き続き、被災者支援活動として、輪島市教育委員会のご協力のもと、5月25日（土）と26日（日）に、避難所となっている市内4か所の小学校等を訪問し、ミニピアノコンサートを行いました。参加された皆さまには大変喜ばれる活動となりました。

今後も、復興に向けた支援について適宜検討の上、実施してまいりたく考えております。

3. 青少年育成活動団体（公益法人）への支援（予算：1,600万円）

地域の発展に貢献するとともに、子どもたちの情操教育に繋がる活動として、青少年育成活動団体への支援を継続的に行ってまいります。

（1）PMF札幌への支援

①本年度の主な取り組み

メインスポンサーとして協賛するとともに、前年札幌で始めたチアーズクラブの子どもたちがコンサートの運営をお手伝いする体験プログラムを、東京でも開催いたします。

②実施期間：2024年7月10日（水）～7月30日（火）

③支援対象：公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会

（2）セイジ・オザワ松本フェスティバルへの支援

①本年度の主な取り組み

フェスティバルの開催に協賛するとともに、前年より取り組みを始めたチアーズクラブの子どもたちがコンサートの運営をお手伝いする体験プログラムに、より多くのメンバーが参加できるよう、取り組みの充実化を図ります。

②実施期間：2024年8月9日（金）～9月4日（水）

③支援対象：公益財団法人 サイトウ・キネン財団

その他、当財団の設立主旨、目的に合致する事業を行う公益法人の活動支援を行います。

管理費（法人会計）

1. 広報活動（予算：8,350万円）

（1）概要書・活動季刊誌及びコマーシャル映像

①本年度の主な取り組み

昨年刊行した活動季刊誌や概要書等をデジタル化し、メールマガジンやアプリ等で配信することにより、配布先の拡大を図り、認知度の向上につなげてまいります。

②配布対象：事業参加者、学校、各国大使館、各省庁、NPO・NGO、取引先、寄附企業、個人寄附者、マスコミ他

（2）ホームページ

①本年度の主な取り組み

a. ホームページの訪問者数を増やすために、ネットへの広告掲載やSNS更新を高頻度で実施いたします。

b. ホームページにコラム・記事ページを新設し、定期的に訪問いただける魅力的なページとすることで、閲覧回数・訪問回数の増加を図ります。なお、コラム・記事ページには、環境・社会への理解を深めるコラムのほか、当財団の活動や事業目的が正しく伝わる記事や映像を掲載したいと考えております。

（3）会員データベースの構築

各事業に参加された方を会員として登録し、システム上で一覧できるデータベースを構築いたします。

①本年度の主な取り組み

a. 新たに構築したデータベースをもとに、最新の会員情報への更新と、双方向のコミュニケーションが取り続けられる仕組みを導入いたします。

b. 併せて、会員情報の整備及び会員に対する情報発信を行うことで、当財団と繋がりを続ける会員の拡大を図ってまいります。

2. 寄附及び協賛

公益目的事業以外の、当財団の事業目的に沿った活動や団体に対して実施いたします。

3. 団体会費（活動支援の寄附として）

- | | |
|-------------------|-----------|
| （1）ジャパンプラットフォーム | 会費予算：30万円 |
| （2）公益財団法人花と緑の農芸財団 | 会費予算：22万円 |
| （3）公益財団法人公益法人協会 | 会費予算：12万円 |

以上